

## 東大和市子ども・子育て支援会議 第2回議事録

会 議 名	平成27年度 第2回 東大和市子ども・子育て支援会議
開 催 日 時	平成27年10月14日(水) 14:00～16:00
開 催 場 所	中央図書館 視聴覚室
委 員	(出席者)佐々木委員、網干委員、伊藤委員、水上委員、上田委員、坂本委員、片野委員、 神原委員、仲里委員 (欠席者)寺山委員、住吉委員
事 務 局	榎本(子ども生活部長)、高橋(子育て支援課長)、宮鍋(保育課長)、中村(青少年課長)、井上(狭山保育園長)、渡邊(保育課保育・幼稚園係長)、恵良(保育課子ども・子育て支援担当主査)、妹尾(保育課保育・幼稚園係主事)
傍 聴 者	0名
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 会長挨拶</li> <li>3. 議事               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)平成28年度の特定教育・保育施設等の利用定員等について</li> <li>(2)子ども・子育て支援に関する施策について</li> <li>(3)報告事項                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・学童保育所の開所時間延長について</li> <li>・パパスクールについて</li> <li>・子育てアプリについて</li> <li>・育児支援パッケージについて</li> <li>・子育て支援員について</li> </ul> </li> <li>(4)その他                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回会議について</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>4. 閉会</li> </ol>
配 付 資 料	[事前配付] 資料1 平成28年度の特定教育・保育施設等の利用定員等について 資料2 伊藤委員がまち・ひと・しごと創生会議に提出した意見書 資料3 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案) 参考資料 東大和市市民意識調査報告書(平成27年7月発行)の抜粋 参考資料 保育施設入所案内(平成28年度) 参考資料 子育て応援講座「パパスクール」チラシ 参考資料 男女共同参画講座「自宅ではじめる!! 女性のための起業講座」チラシ 参考資料 「子育て支援員研修始めます」パンフレット
<b>会議の結果及び主要な発言</b>	
事務局 会長	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 会長挨拶</li> <li>3. 平成28年度の特定教育・保育施設等の利用定員等について (資料1の説明) 来年度に向けての利用定員等について、2園がこういう形で、定員数としては若干の減少</li> </ol>

	<p>の形で、それぞれ、認定こども園並びに小規模保育事業となったわけだが、この件について何か皆さんからご意見あるか。</p> <p>東京都の認定というのは、市の段階で事業者を認めたとして、それに関して都のほうが何か、そこに対して意見を出していくパターンは、現実問題としてあるのか。</p>
事務局	<p>認定こども園自体の認可権者が、そもそも東京都という形になっており、東京都が認可する際には、基礎自治体である東大和市の意見を聞く形になっている。</p> <p>市が反対でなく、園が認定基準を満たしていれば、基本は認定がおける形になる。</p>
会長	<p>申請を上げて通らないということはあるのか。どこまで都が、そういう実態の調査をやるのか。区市町村にその辺の自主的な判断を任せているんじゃないのか。</p>
事務局	<p>認定を取る際には都の職員が園に来て、定員設定や基準の確認であったりとか、現場の確認を実施し判断される。ただ、東大和こども園の場合、ことしの3月まで認定こども園であったという事実があるので、基本的に認定はおける方向とみている。</p>
会長	<p>そのまま認定をもらえるんじゃないかという気がするが、いずれにしても、こういう形での変更があるという前提で、皆さん、何かご意見とか、あるいは質問とかあるか。</p> <p>議題1番目の「平成28年度の特定教育・保育施設等の利用定員等について」は、この資料1のところにもあるように、この案について子ども・子育て支援会議での意見をちゃんと聞くこととなっている。皆様は了解されたということでしょうか。</p> <p>よろしく願います。</p>
	<p><b>4. 子ども・子育て支援に関する施策について</b></p>
会長	<p>続いての議事になるが、「子ども・子育て支援に関する施策について」、これも事務局から説明していただけるか。</p>
事務局	<p>(資料2、資料3の説明)</p>
会長	<p>協議を開始する。資料2がベースとなるが、伊藤委員から何か、補足の説明とかあるか。</p>
委員	<p>本来ならこの場で皆さんから生の声をお聞きして、土曜日にというところだったが、非常にまち・ひと・しごと創生会議のほう、日程が過密で、土曜日にいつも行われるが、金曜日の夕方に次の日の資料が配られ、夜中にそれを見ながら、宿題だと思いつつ、間に合わせるみたいな形でやらせていただいた。</p> <p>ただ、かなり補助金もつくので、それでまた有効ないろいろな活動に使われるということで、このような形でメールでということになってしまった。</p> <p>坂本委員と水上委員と寺山委員からいただいて、このような形でまとめさせていただいた。</p> <p>会議の中で、「日本一子育てしやすいまち」というのが非常にキャッチフレーズになっていて、何を持って日本一かということも、いろいろ委員の方からの議論もあるところだが、私的にはこの資料3にある形で、赤ちゃんから子ども、若い世代、そして働き盛り、また高齢の方々、やはり住みやすいまちにという形で落ち着いた感じのようだ。</p> <p>「日本一子育てしやすいまち」というところが非常にクローズアップされて、皆さん議論もされていたので、私のほうでは初めに、日本一ならということで、発信基地の設立というかなり大きな、夢のようなお話だが、掲げさせていただいた。</p> <p>非常に私自身、いわゆる箱物は必要ないという立場というか、そういう意見を持ちつつあるが、「日本一」を掲げるならあってもいいんじゃないかという意味も込めて、書かせていただいた。非常に実現は難しいところはよくわかっているが、提案させていただいた。</p>

あと、委員の皆様からいただいたご意見を取りこぼさないように、なるべく入れさせていただいた形になっている。

既存にある事業の、もうちょっとこうしたほうが良いという具体的な案がかなり多かったということで、そのあたりを具体的に書いた。この辺などはこの本会議での子育て支援会議で議論されて、できれば吸い上げていただきたい話になるのかなと思っている。

大きな項目だけお話しする。

1番目は2ページにある「日本一子育てにやさしい発信基地の設立」ということで、これは箱物の話だが、具体的に運営の方法、方策などに少しアイデアを交えて書かせていただいた。

2番目は4ページ、「子育て専用HPの開設－情報の一元化、迅速な公開」ということで、ネットの子育て専用ホームページがあるといいんじゃないかということ。

5ページ目は「特色ある子育てサポート」、こちらなどは水上委員からかなり案をいただいて、書かせていただいた。

最後になるが、9番目は「長期的視野に立った取り組み」ということで、ここは寺山委員が思いを込めて書いていただいたところで、子どもたちと赤ちゃんがお年寄りと触れ合える機会というのは、保育園とか幼稚園においてはそういう機会をつくっていただいて、あることはあるが、そういうところに通っていらっしゃらない方にとっては必要なのか。

私は斬新だと思ったのは、中高生に乳児の子育て中、保護者と乳幼児を会わせる機会があるといいんじゃないかというのは、新しい視点というか、なかなか実現は難しいのかもしれないが、中高生の自殺とかいじめとか、耳を塞ぎたくなってしまうようなニュースが多い中、こういう形があると非常にいいのではないかと思った次第だ。最後のページに1つ、「今ある事業の見直し」というところで、3項目上がっている。これも水上委員が書いていただいたりしている。私も手を加えさせていただいた。

このようなところを中心にして、皆さんからご意見を伺えればと思う。

今、大きな柱立てのご説明をいただいたが、この辺に関しては、皆さんからご意見とか、あるいは質問も含めていかがか。

ここで述べられた意見は当然、創生のほうで取り上げてもらえる部分、もらえない部分とかあると思うが、ただ、もしその総合戦略のほうに取り上げられなかったとしても、いいアイデアとして、例えば我々としてどうしても実現に目指して努力してほしいなんていうことがあったら、この子ども・子育て支援会議のほうで取り上げて、1つの施策として考えていくということは当然ありとしていい。

じゃないと、要するに議論するだけしておいて、あとはそのまま取り上げないで終わりというのでは、何のためにするんだということになり、無意味になるので。

一番いいのは、せっかくだから、創生会議のほうのそういう戦略の中にきちんとした形で盛り込まれていけばいいんだが、そうじゃないときも、もったいないアイデアとかあるので、ぜひそういうところも我々のほうで、要するにタイアップというか、相互補完的な形でうまい政策に結びつけられればいいかなとは思っている。

逆に言えば、その辺のところについても、私が個人的に会長としてあるといいと思っても、委員の皆さんが、「いやいや、そんなことは必要ないよ」とおっしゃるであるならば、それはそれでいいんだが。

その辺も含めてどうか、皆さんのご意見。

土曜日に会議に出てお話しさせていただけるとすれば、この素案、大きな柱とか章立て

会長

委員

<p>会長</p>	<p>は、多分もう変わらない話だと思う。既に市民の皆さんからもご意見いただいているし、ただこの中の事業の中で、例えば先ほど言ったコンシェルジュとか、これから中身について具体的にされると思うが、そういうところに入れて、こういう視点を大切にしてほしいとかという要望は出せると思うので、ここのところも少し見てほしいとか、今までやってきた事業でも、もうちょっとこういう形式にしてほしいとか、そういうことで提言することはできるのかなと思っている。</p> <p>今、提起されたように、資料3を開いた目次で、大きい柱立てを変えていくというのは難しいかもしれない。今出ているような新しい事業、現在やっている事業を、例えばある種改善していくとか、展開していくとか、そういうことになるのならば、財政的な面での問題はまた別としてあるが、可能性はあるんじゃないかと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>今、この文章についてお話しいただき、私のほうでちょうど1年前に考えていた、保護者目線からのこうしたほうがもっと市がよくなるから、子育て支援事業でこういう取り組みがあったら、もっといいまちになるということで書かせていただいた文章を、7月に送らせていただいて見ていただいたかと思う。</p> <p>この文章を読んでみてもだが、どれが可能で、どの事業にどういうふうに組み込ませていただけるのかも、とても素人の目でわからないのが正直なところで、伊藤委員も私の意見に加えられている文章を直していただき、寺山委員とかも保護者目線ということで文を考えてつくった。</p> <p>1つ願いは風化させてほしくないということ。こういったものは時間がたってしまうと取り上げられなくなってしまい、そのままになってしまうという部分が多いんじゃないかと思っており、これは私が東大和市で13年子育てをしてきて、いろんなお母さんの意見を聞いたり、自分が経験してきたことの思いが中に詰まった文章である。なので、皆様の意見を聞きながら、これはできるんじゃないかとか、そういうのもわからない部分がたくさんあるので、ご意見いただければうれしいなと思っている。</p>
<p>会長</p>	<p>まさしくおっしゃるとおりで、市民サイドから出てきたいろんなアイデアであるとか、切実なる願いであるとか、そういうものをいかに施策に反映していただけたかというところで、なかなかいい指摘とかあるので。</p> <p>ほかにはどうか、その辺の観点も含めて。</p>
<p>委員</p>	<p>まとめていただいた中に、情報の一元化という言葉がある。情報の一元化ってすごく大事なことだと思う。こちらの冊子をいろいろ見たが、いろんな計画がされていく中に、いろんなものが入っていて、それぞれがそれぞれの情報を発信している。</p> <p>そうすると、こっちではこういうことを書いていて、こっちでは小学生のことを書いていて、こっちでは中学生のことを書いていてみたいな、それこそ妊娠して母子手帳をもらったときから18歳までずっと、トータルして子育てじゃないか。</p> <p>そうなったときに、子どもにかかわることが1つになっているってすごく大事なことで、その中から枝分かれして、生まれるまでだったらここところにアクセスすればいいんだろうとかとなってくると思う。</p> <p>だからその辺の、一元化ということをきちんとしていくことによって、それぞれのセクションがわかりやすくなっていくのかなとすごく思う。</p> <p>だから、全てのところを網羅する、細かく網羅はできないにしても、トータルして考えていけないといけないことだろうと、すごく思う。</p> <p>子育てハンドブックにはこっちに載っていて、こっちにはこのことしか載っていないという</p>

のは、やはり情報がとりにくい。

一番欲しい情報は、去年出て半年たったハンドブックじゃなくてということ。というのは、内容ってすごく変わってくる。ハンドブックもとてもいいものを出していただいているんだけど、内容がちょっと変わってきてしまったりということもあるし、それから市の便利帳、あれも無料でできるということはわかるが、余にもいろんな広告が多過ぎて、そのページで何を言いたいのがわからないとよく言われる。自分が見たいものが見つけにくいと。

だから、そうやってきたときに、お金をかけるのであるんだったら、できるものがあるのなら、見やすいものを、調べやすいものをということが一番かなと思う。

確かに、子育てって妊娠された時点から、成人になるまでという、今は児童福祉法が入って18歳だが、そういう意味では親と子どもが、その関係性が20年とかにわたって続く流れで捉えてほしいというのがある。

それをぶつぶつ横に輪切りにして行って、幼児の時代、義務教育の時代とか、高校時代じゃなくて、最初から最後まで一連の流れの中で市民が捉えるような、そういう情報があるといいなという感じは間違いなくする。

だから、こちらで伊藤委員から出してもらった中で、冒頭のところの発信基地の設立というのと、専用HP云々という、この部分はいわゆる情報の一本化というか、トータル化でくくっていけるんじゃないか。

だから発信基地は何も箱がなくても、ソフトの面でトータルにしたものが、誰かが責任持ってそこのところをやるという、市民が求めている情報というのはそういうことなんじゃないかなという気がする。

そういう意味では国のほうが、子ども家庭省を1つつくろうかというアイデアは前からあるんだけど、文科省であるとか、厚労省とか、それぞれの力関係でもって、なかなか実現しないている。

ただ、内閣府が指導して、今回のこの子育ての新制度の支援計画に関してはやったが、ぜひ東大和がそれこそ率先して、新たに子ども家庭部とか、そういうのを1つつくられるというのもあれかもしれない。

より市民サイドにこういった、少なくともニーズであるとか意見があるということは考慮に入れていただきたいなというところではある。

ほかにはいかがか。

ちょっと関係しているんだけど、今、保育園でも中学生を受け入れたりとかしているが、それは学校行事としての認識として、ここに書かれている中高生と、主に乳幼児の子育て中の保護者との交流の場を設けることを提案するということにもつながると思うが、今おっしゃった、ぷつぷつと切ったところじゃなくて、保育園と小学校の連携は終わっているが、中学生とか高校生との関係、連携ももっととっていけるように学校に働きかけていただくとかということも、必要なかなとも思った。

もう1つは、お母さんが悩んだときに、言えるお母さんはいいが、自宅に閉じこもっていらっしゃるお母さんも結構、保育園のほうで見ているといらっしゃる。こちらからどうかと、園に来ていらっしゃるお母さんに言えば、問いかけすると答えはあるが、1人で悩んでいらっしゃるお母さんがかなり最近多いかなというのを感じるので、情報口から発信するんじゃなくて、どういうふうに吸い上げて、そういう方にかかわっていけるかということも、もうちょっと見直していければいいかなと思った。

会長

委員

<p>会長 副会長</p>	<p>ここに網羅されていること全て、水上委員、伊藤委員、寺山委員さんたちがすごく考えて書いてくださって、私も本当にいいなと思って読ませていただいた。</p> <p>ほかにはいかがか。</p> <p>若くして出産したお母さん、その人たちが結局、情報をどういうふうにとったらいいかもわからなくて、1人で悩んでいてということが非常に多くなっている。</p> <p>子育ての価値観が、お母さんたちが「こうせねばならぬ」というところにとっても偏ってきている。そういうところを助けられることができないかというのは、私も思っている。</p> <p>幼稚園に来ると、お母さんたちはお母さんたち同士のつながりができ、幼稚園や保育園に通わせているお母さんたちのアドバイスが、一番お母さんたちに響く。</p> <p>働いているお母さんたちも、子育てをしているほかのお母さんに触れたり、仕事でなかなか忙しいんだけど、それでも幼稚園の行事にかかわってきたり、あとは自分のお子さんが病気だったり、何なりしたときに、働いているときに、ほかのお母さんに助けを出してもらったり、そういうことによって、子育てはいいなというふうと思うと変わってくる部分、それは幼稚園がやるということも1つなんだけれども、お母さん同士で自主的にそういうことが広まった活動って長続きするし、そういうお母さん同士でイベントを開いたり、そういうこともうちの幼稚園のお母さんも、「すごい」と職員で褒めるというよりも感動するようなことが、「そんなことまでやっているんだ、お母さんたちの活動で」というような、そういうものが応援できるようになったり、そこに人が集まるようにやっていければいいのかなと思っている。</p>
<p>会長 委員</p>	<p>あと、いかが。</p> <p>伊藤委員の年齢と私の年齢、相当差があるので、高齢者の立場から言わせていただきたいが、私たちの立場になると、戦略の16ページの基本目標と施策の方向、この②にある東大和市の魅力を高めて、転入を促進し、転出を抑制するという、部分である。</p> <p>流山市さんの政策もいろいろ読ませていただいたが、私が考えたのは、容積率を少し上げたらどうか。例えば駅前にマンションの容積率を上げることによって、4LDKとか、そういう大きな部屋ができる。部屋の金額も、購入する金額も上がり5,000万、6,000万になる。そういうことによって、生産人口の増加につながり、担税力のある市民が入ってくるんじゃないか、その辺お考えいただいたらいい。</p>
<p>会長 委員</p>	<p>市内を歩いてみても、生産緑地がまだまだたくさんある。でも世代交代で、その中の農地がだんだん転売されて、結局は税金を納めなくちゃいけないので、それを売る。建て売り業者が小さい建物をどんどん建てている、せいぜい2,000万円台。平米数を規制して、40坪以下は建てちゃいけないとかにすれば、収入のある方がたくさん入ってこられる。あとはそのまま転出が抑制できるれば。そんな思いでいる。その辺、行政の方、努力していただければ。</p> <p>ほかにはいかがか。</p> <p>9ページ目の長期的視野に立った取り組みの中で、まず地元の中高生と子育て中の保護者との交流の場。中学校では、職業講話みたいな時間をつくったりする。職業講話だけではなくて、赤ちゃんができたときのお母さん、どんな気持ちだったのかとか、生まれたときにはこんなにうれしかったとかというお話を、小学校の2分の1成人式というときには、学校によってはそんな取り組みしている。中学生でもそういうことを学校が働きかけすればできると思う。</p> <p>赤ちゃんが見つからないんだったら、保健センターに頼めば、赤ちゃんとお母さん来ていただける。そういう形で、今、青少年問題協議会のほうでも、命の大切さを子どもたちにも保護者にも考えてもらうようにしようと言っているところで、赤ちゃんという大事な命ということ考</p>

えてもらう機会をつくるチャンスはあると思う。

それから、社会福祉協議会のほうで、お年寄りの人たちとサロン活動というのを民生委員さんが、それぞれご自分の担当している見守り・声かけの地域の中でしている。そこでは、例えばそっちの民生委員さんのお仕事のところは余り入っていないんだけど、お年寄りの方たちに話をしてくださることもあるし、皆さんでしおりをつくってみたいとか、折り紙したりとか、いろんなイベントをしている。そういうサロン活動の中に働きかけをすれば、それこそ若いお母さんと赤ちゃんが行って、おじいちゃん、おばあちゃんたちからいろんな知恵をもらえるし、それからおじいちゃん、おばあちゃんたち、今、本当に核家族で、なかなか娘さん、息子さん、孫連れてきてくれない、なんてお話を聞いたら、そんなところで一緒に交流するというのも、働きかけがうまくいけば、可能なことだと思う。

きょうも午前中、かるがもの出張で、新堀地区会館へ行ってきたが、来ていたお母さんたちが、簡単にできる夕飯のメニューを教えてください。「じゃ、来週ここにおいて、教えてあげるよ」なんて話をしたが、若いお母さんたちが、うちの子4カ月だけれども、まだ首がしっかりしないとか、大丈夫、大丈夫、赤ちゃんって3カ月、4カ月、5カ月なんていうときは、ほんのちよつとの差だけで、あれと思ったときには、「ころんとお布団の横で寝返り打っているときもあるよ」なんていう話をすると、そうなんだと言って、次2週間たって来たときに、ほらやっているなんて感じのときもある。

だからそういうふうに気軽に大丈夫だよ、そんなに無理しなくていいよということを言える場所っていっぱいあると思う。さっきのいわゆる情報の発信じゃないけれども、知ってもらうことによって、そういう働きかけができるんじゃないのかな。それを誰がコーディネートするのか、そこだと思う。

例えば社協のほうの見守りのサロンのほうには、どういうふうに働きかけるのかなんていうのは、それこそ子ども生活部が動けば、それこそ社協と連携できるんじゃないかなと思う。学校のほうは、指導室にでもお願いすれば、そういう情報はいただけると思う。

中学生の職場体験というものもあるし、保育園に行った子たちって、ただかわいいというだけで帰ってこない。言うことかなくて大変だったとか、だけれども自分だって小さいときそうだったとか、そういう経験をするによって、小さな子どもたちと触れ合って、生意気だけれどもかわいい、それから大事にしなくちゃいけない、そういう保育園の子どもたちもそうだし、それから赤ちゃんだったらなおさら、何にも自分でできない赤ちゃんが、抱っこしたらにこっとしてくれた、それだけでもすごい命の大事さとか、そういうことの学びにもなると思う。そういう働きかけはすぐにできることじゃないのかと思う。

委員

今のお話の中で、逆に乳幼児を高齢者と接触させると嫌がる人もたくさんいる。免疫がないから嫌だ。病気うつされちゃうというお母さん方が結構いらっしゃる。その辺がちよつと。

委員

その辺は話し合った上でやっていただいて。

副会長

餅つきを去年やったときなんか、おじいちゃん、おばあちゃんも手伝いに来てくれて、そういう人とお母さん世代とが話していると、知恵を授かったり、こんなふうにはすればいいのよとか、こういうときはこうなのよとか言ってくれたり。

改めて同じ場に集めて、何かしなきゃいけないとか、用事をしなきゃいけないという大変で、中高生のこともそうだと思う。必ず集まってそういう講話をしなきゃいけないとか、そういうふうになっちゃうと、中高生でも苦しくなってくると思う。

小学校との連携に関しても、小学校を見に行き遊ぶということも大切なんだけれども、そ

れより大切なのは、小学校って楽しみね、お兄さん、お姉さんってどんな人とか、そういうことを子どもたちと話していきながら大きくなるってすばらしいことよと言って、字も書けるようになるんだとか言って、計算もできるようになる、お買い物行くの楽しみとか言って、そういうことを子どもたちと共有をしていくと、その学校に行っていなくても、楽しみになる。

そういう言葉の教育であったり、心の通い合いだったり、この間こういうお兄さん、お姉さんたちがあなたたちのこと褒めていたとか言いながら、つながりというのがこの市にできていけばいいと思う。

いろんなご意見頂戴したが、あとはいかがか。

素案のほう、20 ページと 23 ページを見ていて、20 ページの下のほうで、主な事業①乳幼児育成支援ということで、その下の文章に、幼稚園・認定こども園へ通う園児の保護者に対し補助金等を支給するという事業が入っていて、保護者に対しということだが、その部分と、あとは 23 ページの施策5の学校生活を充実させる力になるという部分の中で、教育力向上の事業の中で、小学校・中学校のことが書いてあるが、この事業の中に、何で幼児期の教育について何かしようという事業が入ってきていないのかと思っていて。

幼児期、3歳、4歳、5歳の子どもの教育の部分がその後の子どもたちにとって大切で、今、東大和の学力が低くて、すごく問題視されている。私の娘も中学校にいるが、その辺も学校も挙げて、授業のこま数をふやしてとか、先生たちも一生懸命で、いろいろ対策を練って「上げよう、上げよう」という形にはなっている。そこもちろん大事なんだが、その前の段階の教育というのもすごく大事なんじゃないかと思う。

市内の私立だが大事な教育機関というのがあって、その部分に対する何かサポートというか、手助けというか、今回、補助金がとても豊富にあって使うことができるのであれば、幼児期の教育という部分で、もうちょっと助けてあげる部分を考えていただいても、先々の子どもたちの学力の向上に対して貢献するのではないかと思う。

伊藤委員のまとめていただいた文章の前に、私が7月に送らせていただいた文章の中に、桜が丘のマンション群の子どもたちが他園のほうに、他市の幼稚園に流出しているという部分を書いた。この部分についても、住んでいるところが東大和だったら、ほかの市の幼稚園で教育を受けてきても、戻ってくるのは別にいいんじゃないというふうに思うかもしれないが、でもそれでは市内にせっかくある機関なのに活性化しない。じゃあ、私立の幼稚園をどうやってサポートするかというと、園児を集めることが一番だ。園児が集まればそれだけ教育の質も上がるし、ゆくゆく小学校入って中学、高校と、いい部分が出てくるんだと思う。

どうしても私立幼稚園と言うと、私立だし民間だし、児童福祉施設ではないというか、難しい部分はあるかもしれないが、今の学力のことを考えるのであれば、小さいときからの教育に市もお金をかけるということは、とても大切なことだと小学校、中学校の子どもを育てていてすごく感じる。

今、言っていたのは、本当にありがたいことで、ほかにそれ以上のことをやってくれということを、私たちは言わない。保育園との格差、あと他市との格差というのがある中で、一番私たちが困っているのは、職員をきちんと確保して教育をしていくというところである。

講師を呼んで研修会をやるにしても、先生たちを研修に送り出しているのも、全部幼稚園で持っているが、そういうところは他市でも出ていたりする部分、あと、今、発達支援がとても大事な状況になっている。そういうところに関しても、基本的に幼稚園は、自分たちの範囲内でやらなくちゃいけない。巡回も私立だからということでお断りされてしまう、加配もない、だか

会長  
委員

副会長



らなるべくうちで受け入れられる人は受け入れながら、ほかの人と同じようにできるようにやっ  
ていっているが、かなり限界がきている部分、ほかの施設と併用でやってもらうことも考えて、  
週1日はほかのところへ行って、ほかは幼稚園に通ってということもやってきているが、そうい  
うものも幼稚園の持ち出しになってしまっている。

泣く泣くそういう意味で、ここで過ごしてきたからやりたいんだけど、この状態じゃ子ども  
にとってよくないから、保育園に移動するという話が出てしまったり、他市だとそういう加配を  
つけてもらえるから行くという話も出てきている。

働いている人でも幼稚園に行きたい、働き方が自営業であったり、あとはアーティストの方  
であったり、保育園に入れたいんだけど、中途半端な時間で幼稚園の預かり保育に入れ  
ながらやっている人たちもいる。

そうやって子育てと働きを両立している人たちを助けるためにも、保育園と同じようなレベ  
ルの補助をしていただいたり、働いている人には保育園と同じように、保育園は50%肩がわり  
があるけれども、幼稚園に通えばそれはない。

だから、未就園児のころから平等に補助金なり、あと施設にお金をかけるなり、認可外保育  
園でも同じだと思う。そういう部分で同じ預けていても、その格差が出てくるという部分が少し  
でも何とかなれば、私はありがたいと思っている。

忌憚のないところで、さまざまな意見を頂戴したが、この辺で行政側の立場としては、ここ  
で伊藤委員のほうでまとめられたことをどう反映するのか。あるいは総合戦略の中に盛り込め  
ないとしたら、それと補完する形で、あるいはタイアップする形で、この子ども・子育て支援  
会議のほうで新たな提案として、どういうことができるのかというあたりを市のほうからお願いで  
きるか。

会長

子ども生活部長 子ども生活部、榎本です。議題の2番、非常に長いご議論、ありがとうございます。

今、会長からもお話あったが、こちらのほうの総合戦略を見ていただくと、「日本一子育てし  
やすいまちづくり」というのが、頭に載っており、市長の公約でもある。

この計画、今年度から4年間で31年度までということで、市長のちょうど任期ぐらいに終わ  
るということで、我々としては任期内に市長が目指しているものについて、1つずつ施策を立て  
て、実行に移していくというのが我々の仕事と思っている。

今回、皆様方で昨年度つくり上げていただいた計画が、こちらの戦略の中に多く出てきて  
おり、ほとんど網羅されていたかなとは思。先ほど戦略のほうの20ページに施設に対する  
補助金というところで、私学助成とあって、幼稚園については施設のほうで直接都とやってい  
ただく形であり、なかなか当市がかかわれないものなので欠落したのかなというところもある。  
こちら幼児期の教育にも助成をということで、認定こども園だと市の助成もあるが、幼稚園とい  
うと直接的な補助がないので、その辺は今週の土曜日に会議があるが、その前に皆様方から  
ご意見いただいたということで、担当課には報告をしたいと思っている。

それから、我々も来年度予算の編成作業に今月も入っている。その中で今何がニーズ  
で高いのか、効果があるのか、さらには転入の増加に結びつく施策を打っていくのがいいと  
考えている。もちろん、いらっしゃる方にとっても、子どものためにもいいものを選んでいかな  
ければならない。我々としては今年度使える補正予算等、アンテナを高く張っていて、ことし  
の7月から始めた病児病後児保育のお迎えサービスというのが、今年度補正予算で通ったと  
ころで、今年度からやれるものはやっていこうというところである。

フィンランドのネウボラという方式は、1人の保健師がずっとお母さん、子どもに寄り添って

いくというようなものがある。安倍首相はこれを全国的に展開していくというようなことも言っている。いずれこれは当市でも必須事項になってくるという認識である。そうすると子ども家庭支援センターとの事業とどのようにやっていくのかというところの課題があると思う。その辺も視野に入れて、当市ではいろいろ施策を打っていかねばならないと考えている。

ここでいただいたご意見については、今後の4年間、5年間、こちらの総合戦略の中でうたっている施策についても、十分反映していけるように貴重なご意見として認識している。

計画の見直しについても、最初の1年はとりあえず、この1年どうだったというところで見え、いただき、その進行管理を来年していただき、その中で新たなもの、それぞれの委員がおっしゃったようなことも加えていけたらいい。

私もいろんなお母さんたちに会う機会があり、嘱託員の採用試験というのは、大体子育て中のお母さんが多い。その面接の際に「当市においてどんな施策があったらいい？」と聞くようにしているが、よく言われるのが「公園がない」ということだ。ここは市もわかっている、今年度から「魅力ある公園づくり」にも着手しており、その計画をつくっているところである。それから、広々とした、子ども、母子で過ごせる場所、それがまだまだ足りないということが非常に我々も痛いところである。

まとまりなかったが、今、当市ではこのようなことを考えているということで、ご参考にしていただけたらと思う。

会長

今、部長から説明あったが、こちらに対して皆さんからご質問とか意見とかあるか。

まち・ひと・しごと創生の補正の話はあるか。

子ども生活部長

今はやりのPRのDVDづくりで、当市の魅力ということで、ことしの夏に変電所のDVDを映像に残していくということで、そういうものをつくったところだ。我々のほうでは地域コミュニティということで、今、自治会の加入率が非常に減っている。数的にはそんなに加入者減っていないが、それより世帯数の伸びのほうが大きい。それを食いとめるということでビデオをつくる。それから庁舎の中に市民課の窓口とか、待ち合いのところにそういうのを流すテレビもあるので、ユーチューブ等でも流す。さらに啓発グッズをつくり、それに向けて年度末にイベントをやろうと考えている。正直言って実際にできるのは5カ月しかない。その中で果たして何ができるかといったら、施策を打っていくというより、年度でうまくやっている、完結してしまうものしかなかなかできない。継続してやれるものだと、その後の財源は市で負担しなければならないので、そういうふうなものをつくることになってしまったのかなというところだ。半年間の短期決戦というところであるので、子育ての関係でも本当はやりかったが、5カ月しかないとなると、持っているものとか、どういうふうを活用するかということにおさまりつつある。

会長

部長からの説明に関して何か、質問とか意見あるか。

この年度後半のところについて出たものは、その期限内で使わざるを得ないというなら、それはそれでしょうがない。しかも28年度以降継続的に補助金を国がくれるという確証がないと、多分、市の単独の財源でやらざるを得なくなってくるから、変に見通しもまだ立たないうちに具体的な施策を決めるというわけにもいかない。そのつらさがあるだろうから、仕方がないところなんだろうけれども。

ほかにはいかがか。

委員

乳幼児健診のときに市から来ていただくが、30、40分訪問させてほしいという話だったが、2時間近くいらした。母子ともに健康かをチェックしていただくが、親が子どもを見ることの相談に乗っていると、相談される方がぐーっと落ちていってしまうみたいで、うちに来

て、子ども3人もいるのでいろんな話をしたら、「すごく元気になりました」と言って帰られた。

そういう状況が実際あり、それで幼稚園、保育園では、保育士さんの確保が難しく、子育ての一番先頭に立って見ている先生方も、ご苦労されて疲弊している部分もあり、若い世代の親というのも子育てに苦労しているという部分もあって、それをサポートして下さる先生方や、保育士さんとか保健センターから来ていただく、巡回で見守っていただける方自身も、かなりメンタル的にもぐーっとなっているところを見ると、そのサポートも必要なのかなど。やはり「無理しなくていいんだよ」とみんなで支え合うみたい。あと情報がとれるという、そこがすごく重要なのかと思って、親と子だけでなく、それを支える皆さん方も疲れてしまうと、多分、子育てうまくいかなくて、幼稚園であれ保育園であれ先生方、また病院であったり、先生方のメンタル的な部分も考えていかないといけないのかというのが思っているところ。

会長  
副会長

現場のそういう生の声が貴重だから、それをいかに市の施策に反映させていくか。

基本的にはお金のことだと思う。幼稚園・保育園の先生の給料が低い状態であるということと、あと、そういう相談に乗っている方が、結局ボランティアをもとにやっていたり、自分たちのふだんの仕事の上の中で、さらに増やしてやっている部分というのはかなり大きいと思う。そういう部分を何とかしていかないと、このままでは、せめて幼稚園・保育園の先生たちも小学校の先生並みに給与が出れば、まだ違うと思う。給料が上がらなくても人を雇えるようになっていけば全然違うんだろうが、小学校と、特に同じ教育の中で幼稚園の中での格差というのはかなり大きくなっているんで、そういう部分というのは難しい。私たちもできるだけそういうふうにしていきたいと思うし、うちの園でも長く勤める先生も増えてきたので、そういうことを何とかサポートして、幼稚園だと結婚すると辞めざるを得ない幼稚園もまだまだたくさんあるらしい。うちの園なんかは先生たちも一生懸命続けてくれるし、うちもぜひ続けなさいということでやっているが、そこは難しい課題かもしれない。

会長

貴重な意見を本当頂戴して、これは事務局のほうもしっかりと受けとめてもらえるんじゃないかと思う。さっき言った総合戦略の反映もそうだが、例えばそれとの、繰り返しになるが、相互補完的に、あるいは対応して、あるいは発展させていく形でもいいから、この会議でも、できるところでは具体的な施策に結びつけられればいいのかなと思う。

問題は財源、まさしく金銭的な問題がいつもついて回るので厳しいところだが。

とりあえずきょうの議題の(2)の施策についての議論では、貴重なご意見頂戴してありがとうございました。

## 5. 報告事項

事務局

### ・学童保育所の開所時間延長について

学童保育所の開所時間が、28年度4月から今現在、午後6時までを、午後7時までになる。延長育成料は月額2,500円、日額については500円となる。

### ・パパスクールについて

10月18日から12月26日まで、全6回の講座をハミングホールで開催する。子育てに取り組むパパになっていただくとともに、子や父親同士のネットワークづくりを狙って開催をするものである。

### ・子育てアプリについて

今年度末の完成をめざして、観光と子育て支援のスマートフォン用アプリを開発中である。予防接種のスケジュール管理などをはじめ子育てに関連する情報が集約される予定である。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 育児支援パッケージについて 子どもが生まれた家庭に名前が刺繍されたタオル等を配布する事業を今年度から始める。市として出産を祝うとともに継続的な子育て支援を始めるきっかけとするものである。</li> <li>・ 子育て支援員について 小規模保育所や一時預かり等の保育現場で補助員として働くことができる制度が始まった。東京都が研修を実施し、東大和市は1名の受講者がいる。</li> </ul>
子ども生活部長	<p><b>6. その他</b> (市民意識調査結果、南街の子ども食堂、国のひとり親支援、産業祭り、ゆるきゃらグランプリ等についての市の動きの説明と報告)</p>
会長	<p>次回の会議は3月に入ってから。日程は事務局から連絡する。 ほかになければ、これで会議を終了する。</p>